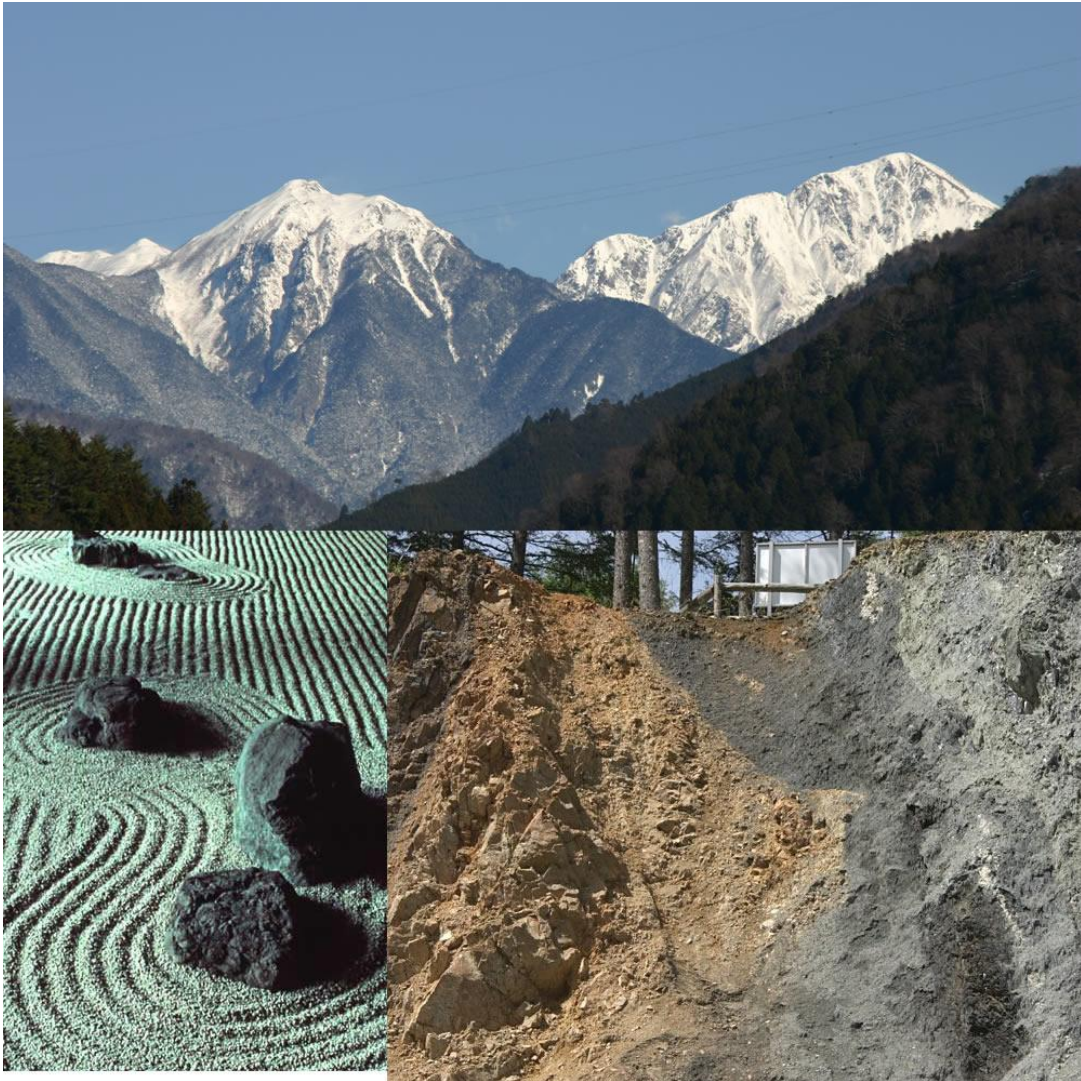


2011年4月

遠山郷の休日

中央構造線探訪・遠山郷枯山水

—日本列島の神秘、中央構造線の断層と石を学ぶ—



研修日程：2011年4月30日（土）・5月1日（日）の2日間

研修場所：長野県諏訪市から飯田市南信濃地区（遠山郷）まで

研修主催：シンクタンク藤原事務所

< 1、研修の内容 >

このたびは、遠山郷の休日の資料請求をしていただき、まことにありがとうございました。ご存知のように中央構造線とは日本列島を東西に貫く大断層で、ちょうど長野県の諏訪から遠山郷を経て静岡県佐久間までは、国道 152 号線沿いに走っています。この断層は日本列島の誕生に深くかかわる断層で、依然として神秘的な部分が多く、断層沿いには不思議な温泉や地形が点在しています。また断層の周辺の断層破碎帯ではもろい地質のために侵食によって谷が形成されやすく、古代から都と信州を結ぶ重要な街道として利用されてきました。しかし近代になると、もろい地質のために自動車が通れる道路を作るのが難工事で、国道 152 号線も 2ヶ所が未開通となっており、地図上にそこが点線で示されていることから、点線国道と呼ばれることがあります。そして長野県から静岡県にかけての中央構造線一帯は地質や岩石の研究に参考となる地層が数多くあり、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークに指定されています。<http://mtlwebmusesub.web.fc2.com/subindex08geopark.htm>

この研修では 1 日目に中央構造線沿いに走る国道 152 号線を長野県の諏訪市から飯田市南信濃（遠山郷）まで、みなさんと自家用車に分乗して下っていきます。そして 2 日目の遠山郷では、中央構造線沿いに移動する途中で参加者各自に拾っていただいた石を使って、ご自身で手軽に楽しめる枯山水を作っていただき、お持ち帰りいただきます。さらに 2 日目の午後には、農園作業をしていただき、さらにご希望の方には世の中の動きが急ピッチになっていますので、藤原直哉が『激動の時局と日本の未来』というタイトルで講演をさせていただきます。

毎年恒例の早春の研修となりますが、例年大変多くの方に来ていただいております。今年も多くの方に来ていただき、断層と石をテーマに、日本列島の不思議を実感していただければと思います。

以下、体験研修の概要をご紹介します。

なおこの研修は、基本的にご自身の自家用車でご参加いただく研修です。もし自家用車のご利用でなくご参加の場合には、藤原事務所や遠山郷スタッフの車に分乗していただきますので、お申し込み時にお知らせ下さい。また道路に不通箇所があったり危険だったり悪天候の場合には、臨機応変に迂回します。特に今回の行程では、分杭峠と、地蔵峠から南信濃の間は、道や天気が崩れると行かなくなる可能性があるため、あらかじめご了承下さい。また山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。

まず、研修は長野県の諏訪市から始まります。諏訪市に面する諏訪湖はとても有名な湖ですが、実はこの湖の下では日本列島を東西に貫く中央構造線と、日本列島を南北に貫く糸魚川静岡構造線という 2 大断層が交差しています。そのため、諏訪湖も湖底に貯まった泥を除くと、本当の湖底は底知れず深いのだそうです。しかもその交差点で糸魚川静岡構造線が横にずれて中央構造線を一部分断しているのです。諏訪は縄文時代に青森と共に日本の中心のひとつだったと言われていますが、依然として謎の多い場所です。

そして集合は、信濃国の一之宮である諏訪大社上社本宮近くの、ドライブインこだわり横丁の前の駐車場です。ご存知のように諏訪大社では 7 年に一度、御柱（おんばしら）と呼ばれるお祭りがあり、男たちが巨大な御神木を神社まで運びます。実は御柱というお祭りは遠山郷にも伝わっていて、遠山郷にある諏訪神社でも、7 年に一度、御神木が奉納されます。これも中央構造線沿いに信仰や文化が入ってきたものと思われます。

諏訪大社上社本宮前を出ると、国道 152 号線はすぐに急な上りになり、高度差 400 メートルをたった 3 キロで上って杖突（つえつき）峠（標高 1247 メートル）に至ります。この急な上り坂は断層のずれによって生まれたものです。杖突峠からは天気が良ければ霧が峰方面

の山々がよく見えます。そして杖突峠から南に緩やかに坂を下ると、桜や大奥の江嶋（絵島とも書く）で有名な高遠に至ります。ここから南の分杭（ぶんぐい）峠に向けて坂を上ります。この国道 152 号線は秋葉街道とも呼ばれ、近世は遠州の秋葉山に通ずる信仰の道でしたし、それ以前の戦国時代には甲斐の武田軍の軍道でもありましたし、時代を超えて塩を運んだ塩の道でもありました。

途中、中央構造線の露頭（ろとう）が見える溝口の露頭に立ち寄り、断層の左右で全然岩石の色が違う様子を見ていただきます。そしてさらに南下して峠を上ったところが、ゼロ磁場として有名な分杭峠（標高 1424 メートル）です。ここは決して磁場がないわけではないのですが、非常に心地よい気が発せられている場所で、癒しを求める人々が全国から訪れます。本当はここに立ち寄り、お弁当を食べたいのですが、近年のパワースポットブームでこの峠には信じられないほど大勢の人が押し掛け、峠の駐車場は閉鎖され、峠に行く人はふもとで村営バスに乗り換えなければならなくなりました。そこまでして行ってもこれだけ大勢の人がいれば本来の気など感じられるはずもなく、峠そのものは通過します。

国道 152 号線を再び南下して、途中矢立木に寄ります。これは高さ 29 メートル、周囲 6.1 メートル、樹齢 5 百年のさわらの大木で、戦国時代から江戸時代初期にかけてこの地域を治めていた遠山氏が木の根元に矢を立てて弓の修練をした場所です。しかしあるとき、遠山土佐守の叔父、遠山新助景道がこの木に射込んだ矢から血が出て不吉を感じる事件があり、その帰りに新助は領民に襲われて殺されました。遠山郷に伝わる祭り、霜月祭りには遠山氏の霊を慰める面が出てきます。さらに南下して北川の露頭に立ち寄った後、大鹿村の鹿塩（かしろ）温泉に行きます。ここの河原で昼食にします。

鹿塩温泉には、塩壺と呼ばれる場所から海の水と同じ濃度の井戸水が湧いていて、これを沸かして山塩と呼ばれる塩が作られています。この山塩は大変おいしいお塩で、一度食べたら止められないほどおいしいお塩です。あまり多くの量は生産できないのですが、日本列島のなかでここでしか作られていない山塩を是非お試し下さい。またこの海水と同じ濃度の井戸水は、科学的にどこから来たのかわかっていない塩水だそうで、中央構造線の神秘が感じられるお塩でもあります。

それからもう少し南下して、大鹿村営中央構造線博物館を見学します。ここには中央構造線を知るためのさまざまな展示があり、学芸員の方にお話をいただいて、日本列島の成り立ちから今日に至るまでの地学的な時間的スケールで日本を見ていただきたいと思います。

中央構造線博物館を出ると、再び国道 152 号線は険しい峠道になります。途中、安康の露頭を見学して、さらに上ると、やがて国道は人が歩くことすら難しい点線国道になります。しかしそのすぐ脇には隣の谷を上る林道が通っていますので、それを上って地藏峠（標高 1314 メートル）を経由して、再び中央構造線沿いに国道を下ります。

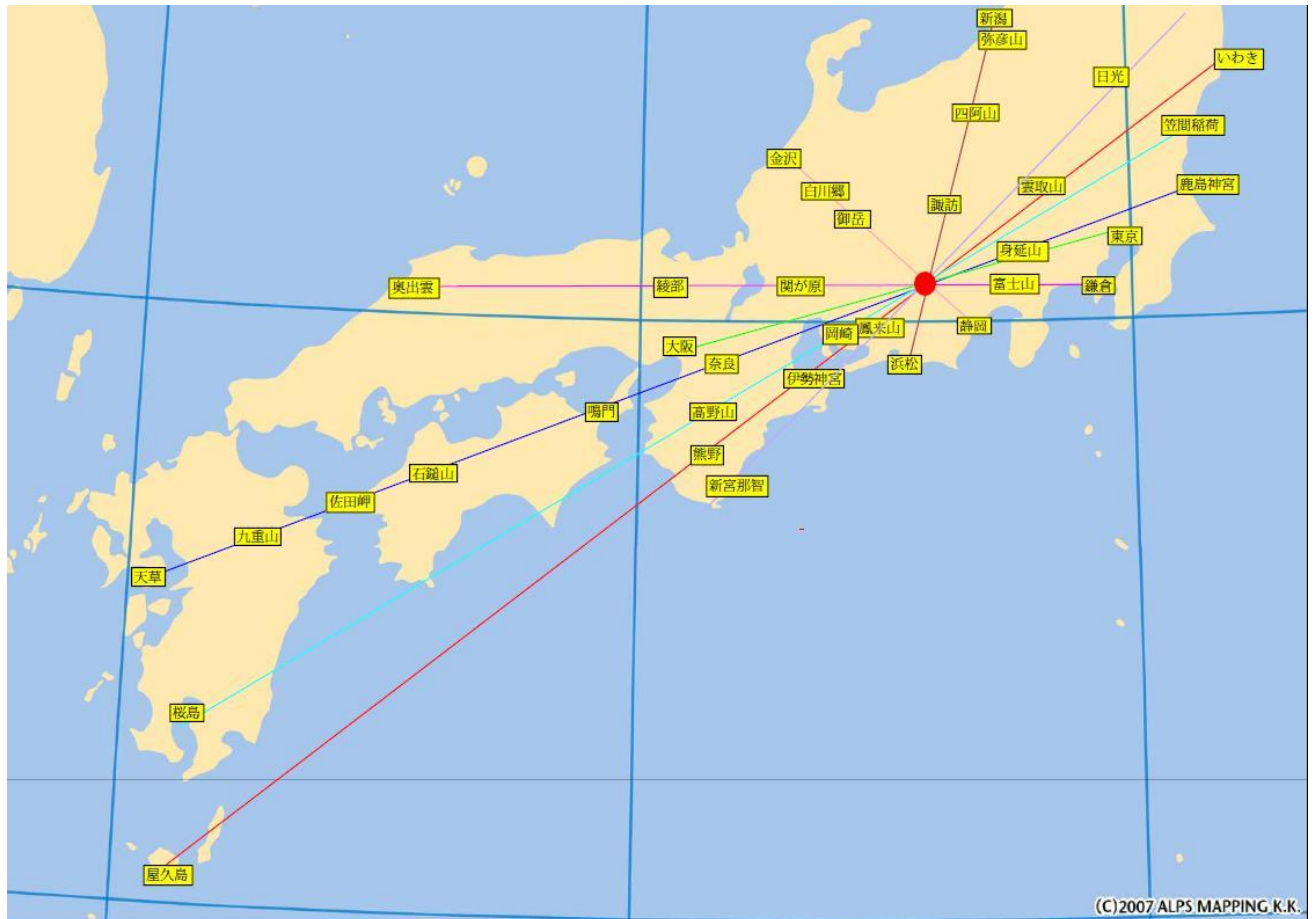
そして遠山川沿いに南信濃地区に入り、小道木（こどうき）地区で、できれば遠山川の河原で散策をしたいと思います。ここには河原に埋まっている埋没木があります。埋没木は今から 1300 年ほど前に巨大地震による一瞬の山崩れで埋没してしまった、当時の樹齢数百年のスギやヒノキやケヤキの立ち木が近年露出したものです。ヒノキなどは今でもヒノキの香りが漂い、古代の木の命をそのまま感じることができます。さらにこの地区には、熊野神社があります。実は熊野神社の拝殿の前の地面に手をかざすと、不思議と気を感じます。それが何に由来する気かはわからないのですが、とにかく気の出る神社です。

そもそも遠山郷は次ページの地図のように、日本の多くの不思議な場所を直線で結んだ交点にあります。何か我々の知らないエネルギーが出ているのかもしれませんが。そして和田地区にある飯田市南信濃自治振興センターを見学します。ここは近年できた地域交流の中心施設で、ここには埋没木の解説があるほか、遠山郷で伐採された 7 種類の見事な巨木が建物の前面に並べられています。

そして、今日一日の疲れをいやすべく、遠山温泉郷かぐらの湯に行きます。かぐらの湯は遠山郷に沸く源泉 43 度の高濃度塩化物温泉で、豊富な湯量と熱いお湯で、疲れを癒してい

たきます。

お泊りは中央構造線沿いに国道 152 号線をさらに南に下った**此田 (このた) 地区**にある**民宿このた**です。ここはもう少し南に下ると国道 152 号線の最大の難所**青崩峠**で、峠の下に**青崩峠道路**を作る計画が進められています（現在は青崩峠を迂回する**兵越 (ひょうこし) 峠**が車の往来に使われています）。



そして宿の前でも青崩れの名にふさわしく、青緑色の崖を見ることができますし、地面にも青緑色の石を多数見ることができます。民宿このたでは、野菜もきのこも雑穀も、調味料に至るまですべて自家製のものを使った、お母さんと若旦那さん手作りのこだわりの料理を堪能していただきます。郷土料理・創作料理のレパートリーも多く、常連さんを飽きさせません。窓から眺める**小嵐溪谷**も絶景です。

そしてお食事は、地元の方々との懇親会を兼ねています。都会の人にも物怖じしない遠山郷の皆さんと交流してください。遠山郷の皆さんもお客様と話すことがとても楽しいようです（なお、お申し込み多数の場合、若くて元気な方には、懇親会のあと、此田よりも標高の低いところにある八重河内地区の**いろいろの宿島畑**に分宿していただきます。当方で送迎いたしますのでどうぞご了承ください）。

二日目はまず、みんなで此田地区を散策します。ここから見える雄大な山々と急峻な地形をお楽しみください。そして再び**和田**地区まで戻って、**龍淵寺**に行きます。龍淵寺は先述の遠山氏の菩提寺です。龍淵寺の境内にコンコンと湧き出す**観音霊水**は、日本全国の名水のなかで最もカルシウムとマグネシウムの含有量が多いお水で、硬水ながらとても飲みやすいお水を求めて、全国から人が集まってきました。このお水も中央構造線の恵みだと思います。どうぞ参加者のみなさんもペットボトルやポリタンをご用意いただいて、おいしいお水を持って帰ってお楽しみ下さい。

さらに観音霊水のすぐそばには、**殿町の茶屋**というお店があって、名物の**ふじ姫饅頭**を売っています。地元の女性が経営しているこのお店は、知る人ぞ知るお饅頭屋さんで、とてもおいしい手作りのお饅頭を、心温まるおもてなしと共にご案内することができます。そして大

抵は午前中で売り切れになり、外部では一切買うことができない貴重なお饅頭です。

それから今回、遠山郷枯山水体験研修を開催する旧木沢小学校に行きます。旧木沢小学校は平成11年に廃校となった地元の小学校ですが、地元の方が保存して地域活性化施設として多目的に利用されています。校内には南アルプスの登山、かつて遠山川沿いに走っていた森林鉄道、地元で伝わる伝統の祭り、霜月祭りなどの展示があるほか、往時の教室が再現されていて、一日体験入学や映画や演劇上映、コンサート、CMやビデオ・映画の撮影など、さまざまな行事に使われています。また図書室には藤原直哉の蔵書約3千冊が寄贈されて、藤原文庫と命名されています。遠山藤原学校の事務所も木沢小学校のすぐ隣にあり、遠山藤原学校観光農園も併設されています。

旧木沢小学校では展示物を見学した後、遠山郷枯山水体験研修を開催します。枯山水というのは、水のない、石や砂などで作るお庭のことで、講師は遠山郷で個の花を咲かせよう会の幹事で、愛知県で造園業を営まれる、遠山郷スタッフの一人、久志公洋さん。今回は一人ずつコンパクトな植木鉢に、前日の研修中に各自選んで拾っていただいた石を使って、鉢植え庭園の枯山水を実際に創っていただきます。なお、遠山郷で個の花を咲かせよう会とは、遠山郷が好きで遠山郷にしばしばお出での方で、何かご自分の得意技をお持ちの方、得意技をお持ちになりたいとお思いの方で作る会です。私も会員だ！と言えば自動的に会員になれる会です。まさに遠山の大自然の中で、中央構造線の石を生かして、自分だけのお庭を創っていただきます。デジタルではないアナログの世界、「見立て」による自然を楽しんでいただきたいと思います。

そして昼食は、和田地区に戻って元屋という地元の若者が経営している食堂でいただきます。このシェフはかつて東京で料理人として活躍していた方で、地元の創作料理に日々取り組んでおられます。それから再び旧木沢小学校に戻り、1時間ほど農園作業をしていただきます。その後ご希望によって引き続き農園作業、あるいは藤原直哉が激動の時局と日本の未来というタイトルで講演をさせていただきます。そして午後3時45分に現地解散となります。

今回も盛りだくさんの内容ですが、縁ある数多くの方々に中央構造線や枯山水、遠山郷の自然、そしてそのなかで生きる喜びを味わっていただき、中央構造線と枯山水と遠山郷のファンになって、21世紀を明るく元気に生きるための、たくさんの知恵と実力を得ていただきたいと思っています。

2011年2月吉日
シンクタンク藤原事務所
会長・経済アナリスト 藤原直哉

遠山郷枯山水体験研修 『石との戯れ』

日本を代表する作庭家、重森三玲氏は次のような言葉を残しておられます。

庭をもつことは、自然の一部を持有することです

もし日本だけの純粹な、そして、独特な芸術を求めるとすれば、庭園と生け花が、最たるものです。その数、質、歴史において日本ほど傑出した庭園国は世界にない。重森三玲

本当にそのとおりだと思います。そしてそのなかでも枯山水という庭園は、最も日本らしいお庭ではないでしょうか。枯山水にもいろいろありますが、今回皆さんに創っていただきますのは、石、土、白砂、そして遠山郷の苔を使った枯山水の鉢植え庭園です。材料はすべて自然のものを使った、自分だけの庭園です。

実にロハスそのものだと思いますか？

たったこれだけですが、石の据え方ひとつで全然ちがうのです。

石には顔があります。表情があります。石の扱い方ひとつで微妙に変化します。

また、各石の配置、あしらい方で相乗効果が生まれ、庭園全体がすばらしくなります。

そうです。リーダーシップとも通ずる部分があるのです。

基本的な石の知識と作法を覚えれば、だれでも簡単に作庭できます。

しかし同時にとても奥が深く、際限がありません。ですからとてもおもしろいのです。とても癒されます。

先の重森氏の言葉は、現代風に直しますと、「**庭をもつことは、自然の一部を持有し、自然と共生することです**」、という意味になるのではないのでしょうか。

中央構造線と遠山郷のどこにでもある石を使って、世界にひとつだけの、あなたの枯山水庭園を作庭してみましよう。

是非ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

2011年2月吉日
遠山郷で個の花を咲かせよう会 幹事
株式会社大喜造園土木
代表取締役 久志公洋

久志 公洋 (くし きみひろ) 略歴

株式会社大喜造園土木 代表取締役

〒496-0905

愛知県愛西市北一色町証文220-23

Tel 0567-24-4513 Fax 0567-24-4594

E-mail : soyogo@a-niwa.com

homepage : <http://www.a-niwa.com>

昭和32年 愛知県名古屋市生まれ

昭和50年 愛知県立稲沢高等学校造園土木科卒業

東海園株式会社入社

主に民間工事統括責任者として工場緑化・街路緑化・公園造築
公共施設の緑化・住宅庭園・茶室作庭などあらゆる造園工事に従事

昭和63年 株式会社大喜造園土木代表取締役

～現在10年ほど前より、「人にやさしい・地球にやさしい」を
モットーに無農薬・無化学肥料でのお庭造り・メンテナンスを
推奨しています。






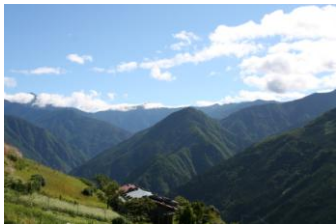
体験研修の内容

- 1) 簡単な庭の歴史と形式
池泉遊舟式庭園、池泉回遊式庭園、書院などからの鑑賞式、枯山水、路地(茶庭)
- 2) 自然の材料と芸術的な構成
自然の材料と人工的材料、材料を選ぶこととは、庭の芸術的な構成とは
- 3) 岩石の種類と特徴
名石よりありふれた石に価値を
全国各地の庭石
庭石の名称(花崗岩(御影石)、青石(結晶片岩)、安山岩、赤玉石、凝灰岩)
- 4) 石の表情とは
石には顔がある
石の各部分の名称
(天端・角・段、鼻・顎・見つき、見込み・根張り、頭・胴・腰・脚・肩)
- 5) 石を回して変化する石の表情
- 6) 根入れの深さで変わる石の表情
- 7) 実習(作庭)

なお、お作りいただいた枯山水をお持ち帰りいただくための宅配パックも実費でご用意しております。宅配パックに梱包してお車に積んでお持ち帰りいただけます。また、実費にて宅配便で発送することも可能です。

< 2、研修日程 >

4月30日（土）

時間	予定		写真
9:30	出発	長野県諏訪市中洲神宮寺 188、諏訪大社上社本宮近く、 ドライブインこだわり横丁前駐車場（県道16号線沿い） から自家用車に分乗して出発 ・電車 JR中央線茅野駅下車 タクシーで約10分 ・自家用車 中央高速道諏訪インターチェンジから車で約10分	 杖突峠
9:45	到着	杖突峠	
9:50	出発		
10:15	通過	高遠	
10:30	到着	中央構造線公園（溝口の露頭）	
10:45	出発		
11:00	到着 通過	分杭峠、混雑による規制のため通過	
11:35	到着	矢立木	
11:40	出発		中央構造線の露頭
11:45	到着	北川の露頭	
11:50	出発		
12:10	到着	鹿塩温泉・塩の里、各自持参のお弁当で昼食	ゼロ磁場
13:35	出発		
13:40	到着	中央構造線博物館	
14:40	出発		
15:00	到着	安康の露頭	
15:30	出発		
16:15	到着	熊野神社（気の出る神社）、小道木の埋没木	しらびそ高原（夏）
16:45	出発		
16:50	到着	飯田市南信濃自治振興センター	
16:55	出発		
17:00	到着	かぐらの湯	
18:00	出発		下栗の里（夏）
18:20	到着	民宿このた、夕食・懇親会、その後ご希望の方は二次会へ	

5月1日(日)

時間	予定		写真
6:30	起床	民宿このた、あるいは、いろいろの宿島畑	
7:00	朝食		
7:30		此田地区散策	
8:00	出発		
8:20	到着	和田宿 龍淵寺、殿町の茶屋、観音霊水	
9:20	出発	観音霊水を汲んで帰られる方は、ペットボトルやポリタンクをご用意下さい。	
9:30	到着	旧木沢小学校、見学	
10:00	講座	遠山郷枯山水体験研修 (2時間)	
12:00	出発	和田地区へ	
12:15	昼食	和田地区の元屋にて昼食	
12:45	出発	木沢地区へ戻る	
13:00	到着	農園作業 農園作業ができる服装と軍手をお持ち下さい。	
14:00	講演	ご希望により引き続き農園作業、あるいは 藤原直哉講演会『激動の時局と日本の未来』	
15:30	終了		
15:45	解散	現地解散 電車でお越しの方は、JR 飯田線の平岡駅までお送りします。 豊橋方面行特急は 16:42 発です。	

なお、道路に不通箇所があったり危険だったり悪天候の場合には臨機応変に迂回します。特に今回の行程では、分杭峠と、地藏峠から南信濃の間は、道や天气が崩れると行かれなくなる可能性があるため、あらかじめご了承下さい。

また山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。

< 3. 研修費用・宿泊場所・研修人数・集合解散など >

この研修では費用は実費現地精算となります。

宿泊と食事： 宿泊施設およびお食事は1回の朝食、1回の昼食、1回の夕食懇親会ともに、時間の都合上、事前に予約注文させていただきます。
もし変更ご希望の方は事前にお申し出ください。

費用目安：	1日目の昼食 各自持参のお弁当	各自
	1泊朝食・夕食懇親会 民宿このた（島畑）	価格 10,000 円
	2日目の昼食 元屋の特制定食	価格 1,500 円
	博物館、温泉入浴、旧木沢小協力金等	合計 1,500 円ほど
	枯山水研修講師料と資材および宅急便実費	価格 3,000 円ほど
	藤原直哉講演料	価格 3,000 円
	旅行保険（必ず加入させていただきます）	価格 1,000 円
	マイム2次会歌い放題、飲み放題	価格 3,000 円

また、電車でご参加の方で、スタッフの車に分乗される場合は、燃料・整備代等の一部として、大人1人1千円をお支払いください。

なお、宿泊、食事の子供・乳児料金は問い合わせますのでお申し出ください。

宿泊場所： 民宿 このた
〒399-1312 長野県飯田市南信濃八重河内 1373
TEL 0260-34-5034 FAX 0260-34-5091

また、民宿このたに泊まり切れない場合には、以下の旅館に分宿

いろいろの宿 島畑
〒399-1312 長野県飯田市南信濃八重河内 580
TEL 0260-34-2286 FAX 0260-34-2281 E-mail info@shimabata.com

研修人数： 最小5名、最大20名程度
先着順にお申し込みをお受けし、定員になり次第締め切ります。
参加申込書をシンクタンク藤原事務所宛てにお送りください
(FAXまたは郵送でお願いします)。

集合・解散： 集合： 4月30日（土）9：30
長野県諏訪市中洲神宮寺 188、諏訪大社上社本宮近く
ドライブインこだわり横丁の前の駐車場（県道16号線沿い）
同所電話 0266-54-5111
中央高速道 諏訪インターチェンジから約10分

電車でお越しの場合、東京方面から
新宿 7：00 スーパーあずさ1号 茅野 9：08
下車後タクシーで10分
長野県諏訪市中洲神宮寺 188、諏訪大社上社本宮近く

ドライブインこだわり横丁の前の駐車場（県道16号線沿い）

解散： 5月1日（日） 15：45

長野県飯田市南信濃木沢 旧木沢小学校

（電車でお帰りの場合の時刻）

平岡 16：42 特急伊那路4号 豊橋 18：31

豊橋 18：43 ひかり526号 東京 20：10

なお、当日の緊急連絡は、藤原直哉の携帯電話へお願いします。

090-3046-6354

<4. 注意事項、および持ち物など>

- 一日目の昼食として、**各自お弁当をご持参下さい。**
- 農園作業ができる**服装と軍手**をお持ち下さい。
- 道路に不通箇所があったり危険だったり悪天候の場合には臨機応変に迂回します。
- 特に今回の行程では、分杭峠および地蔵峠と南信濃の間は、道や天気が崩れると行かれなくなる可能性があるため、あらかじめご了承下さい。
- 山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。
- 乗り物酔いをご心配の方は、酔い止め薬を服用されることをお勧めします。
- この季節の国道152号線沿いはまだ寒いので、防寒用のセーターやコートなどをお持ちください。
- 観音霊水を汲んで帰られる方は、ペットボトルやポリタンをご用意下さい。
- なお、携帯電話は、電波が届かない場所があります。

申 込 書

2011年4月 遠山郷の休日 中央構造線探訪・遠山郷枯山水体験研修 ご記入日： 年 月 日

どちらかを選択してください ・ 自家用車でご参加 ・ 電車でご参加 (藤原事務所の車に分乗)

フリガナ		性別	男 ・ 女
お名前		生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
弊社お客様番号 (おわかりになる場合)			
フリガナ		性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ		性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ		性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)

■ご連絡先について

<input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 会社・学校 ※どちらかにチェックをおつけください。			
会社名 学校名等	※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。		
	部署：	役職：	
ご連絡先 住所	〒 _____		
TEL	() _____	FAX	() _____
携帯電話	緊急時 連絡可・不可		
電子メール	_____ @ _____		
喫煙の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <small>※部屋割りの参考にさせていただきます。</small>		
●その他ご希望等ございましたらご記入ください。			

シンクタンク藤原事務所 担当：樋口敬子

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町2-13-12 ASUKAビル2F

TEL 0465-44-4750 E-Mail higuchi@fujiwaraoffice.co.jp

↑ FAX送信先：0465-44-4751 ↑